

平成31年度 青葉区個性ある区づくり推進費【SDGs未来都市推進事業】一覧

(単位：千円)

事業名	31年度		30年度		増△減 (31-30)	
	総額	一財+市債	総額	一財+市債	総額	一財+市債
「SDGs未来都市地域主体型事業」 あおばコミュニティリビング推進事業	2,450	2,450	2,440	2,440	10	10

[青葉 区 区政推進 課]

予算区分		性質・課題区分		事業開始年度	平成28年度
------	--	---------	--	--------	--------

事業名
「SDGs未来都市地域主体型事業」あおばコミュニティリビング推進事業

特記事項	
中期計画-38の政策	○
中期計画-行政運営	○
中期計画-財政運営	○
重点事業	
新規・拡充	
温暖化対策関連事業	○

中期計画-38の政策	
政策番号	主な施策番号
21	2

事業評価書番号	
事業評価書番号	

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳				一般財源
		国・県	諸収入			
本年度	2,450					2,450
前年度	2,440					2,440
増△減	10	0	0	0	0	10

歳出		27年度	28年度	29年度
予算	事業費		2,000	1,500
	メリット+一般財源		2,000	1,500
決算	事業費		1,447	1,439
	メリット+一般財源		1,447	1,439

歳出		32年度	33年度
予算	事業費	4,730	4,730
	一般財源	4,730	4,730
方針に関する決裁種別()			
有:件名()、日付(年月)			
無			

事業の概要(目的)	環境・経済・社会の3側面の課題解決を目指し、超高齢化や環境に配慮した持続可能な住宅地モデルの推進を図るため、あおばコミュニティリビング推進事業を展開します。環境面で環境負荷の低減、経済面で地域経済の活性化、社会面で持続可能なまちづくりを実現を目指します。
-----------	---

(説明)					
1 地域の課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・超高齢社会、人口減少が予測される中、高齢化率が既に30%に達している地区もあり、従来の商店街も衰退。 ・開発による土地利用がほぼ落ち着き、社宅からマンションへの土地利用更新が進み、若い世代の流入が徐々に減少。 ・建築協定地区が減少し、まちの魅力が低下。 ・住宅や医療施設等の老朽化が進行。 ・歩道が狭く坂道が多い歩きにくい状況。 				
地域の課題等の収集手段	1 日常の窓口対応等	5 区民アンケート	6 区民要望		
2 運営方針等との関係	平成29年度青葉区運営方針「住み続けたいまち！次世代郊外プロジェクト」				
3 根拠法令・要綱等	横浜市SDGs未来都市計画				

【実績の推移・今後見込み】

H30	H31	H32
すすき野地区のまちの将来像(案)の作成	すすき野地区における地域資産の活用に向けた検討・調整	すすき野地区における事業者公募、事業実施 他地区への展開

2020年のアウトプット目標：民間活力を導入し、小学校の閉校跡地の活用を行う。
SDGsの達成年次である2030年に向け、環境面で『建物の低炭素・省エネルギー化』、経済面で『地域人材・企業等との連携』、社会面で『多様な世代が居住するまちの形成』を進め、『持続可能な住宅地』の実現を目指します。

「次世代郊外まちづくり」で提案されている、コミュニティ・リビング・モデルの区内全域での展開実現に向けた事業を推進します。

平成31年度は「青葉区まちづくり指針」において、生活支援拠点に位置づけているすすき野地区をモデル地区として取組を進めます。平成30年度に作成する「まちの将来像(案)」で定めるまちづくりの方向性に基づき、地域住民、企業、大学等との対話により、小学校の閉校跡地等の活用検討を行う。

【事業費の内訳】

細目事業名	本年度	前年度	差引	説明
あおばコミュニティリビング推進事業	S 2,450	S 2,440	10	検討内容に基づく委託費用の積算による増
事業費合計	2,450	2,440	10	
内 自主企画事業費	0	0	0	
内 重点事業	0	0	0	

【根拠とするデータ等】

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	企画調整係
	吉田 和重	平野 清孝	川島 史也